

トラを知り、人を知る。

アムールトラと先住民の森へのエコツアー

アムールトラにご関心のある皆さまへ！

ロシア極東に今も残される原生に近い広大な森林地帯が紅葉に色づく9月。この多様に色づく森とそこに暮らす先住民族ウデへの生活に触れるため、日本からの旅行者の皆さまが毎年のように訪れています。

この度、緊急ではありますが、毎年行っているエコツアーの内容を一部変更し、アムールトラの生息地としての森をより一層ご理解いただくため、生息地ホットスポットであるビキン川中流域でのキャンプを増やした日程でのツアーを企画させていただきました。

トラの生息地である豊かな森を肌で感じ、それを取り巻く様々な問題に耳を傾けてみませんか？アムールトラにご関心のある皆さまのご参加を心よりお待ちしております！



トラと先住民の森を知る旅

日本から飛行機で約2時間。日本海を挟んだ向こう側には、広大な原生の森が広がり、世界に約500頭と言われる野生のアムールトラを頂点とした豊かな生態系が広がっています。ロシア沿海地方、シホテ・アリニ山脈へ源流をもつビキン川の上・中流域。その森には今も先住民族が暮らし、アカシカやイノシシを狩りながら、彼らが神聖な生き物とするアムールトラと共存した昔ながらの生活を送っています。

しかしながらこの豊かな森林は、木材としての開発対象でもあります。私たち日本人が建てる家や何気なく使っている家具やフローリングなどの材料は、このロシア極東の森林から伐られたものが多く、そのうちのあるものは、豊かな生態系を無視した方法により伐採され続けています。このような「違法伐採」は、近年深刻な問題として国際的に認知されています。

森を歩き、アムールトラの生きる森を学ぶ

この森にはアムールトラの他にも、ヒグマ、ツキノワグマ、オオカミなどが生息し、シカなどの有蹄類を捕食して生きています。先住民族のウデへは、自主的に組合を組織し（組合の名称は、トラを表すロシア語の「ティーグル」）、この森の恵みに与りながら、国内外の環境NGOと協力し、森からの恵みの持続可能な利用に努め、開発や密猟者の侵入を防ぐために活動しています。

この度のツアーでは、先住民族ウデへの猟師たちが現在も狩りをする猟場でキャンプを行い、ウスリー・タイガと呼ばれる針葉樹と広葉樹が混交して植生する生物多様性豊かな森を探索します。アムールトラ生息頭数調査の現場調査員であるウデへの猟師のガイドで森を歩き、アムールトラを始めとするタイガの生き物たちの現状と、先住民の今を学びます。

ビキン川とは？

ビキン川(Bikin River)はロシア沿海地方(Primorsky Krai)を日本海に沿って連なるシホテ・アリニ山脈(Shikhote-Alini Mountain Range)に流れを発し、同地方北部を内陸へ向けて流れ、中露国境付近でウスリー川(Ussri River、アムール川の支流の一つ)に注ぐ全長約600kmの川です。ビキン川の上・中流域(約1万3,000平方キロメートル)はその90%以上が森林地帯となっており、森林地帯も河川もこれまで大規模な開発を免れてきました。工事や建物の建造は殆どなされておらず、自然が手つかずに近い状態で残っています。上流域はエゾマツ、トドマツ、カラマツを主とする針葉樹林地帯、中流域は針葉樹のチョウセンゴヨウマツ(Korean Pine)とシラカバ、ナラ、ニレ、タモなどの混交する針広混交林(ウスリー・タイガ)となっています。詳しい情報は、コチラのHPをご覧ください: <http://www.foejapan.org/siberia>



FoE Japan (Friends of the Earth)とは？

FoE(Friends of the Earth)インターナショナルは、1971年に設立され、本部はオランダのアムステルダム。世界69ヶ国に200万人のサポーターを持ち国際的な環境NGOのネットワークを形成している。

FoE Japanは、このグループ団体として1980年から活動を開始。気候変動、開発、森林、まちづくりなどをテーマに、国際ネットワークを活かした活動から地域プロジェクトまで、持続可能な社会をめざし行動している。

詳しい情報は、コチラのHPをご覧ください: <http://www.foejapan.org/>

【日程表】

日付	場所	移動手段	スケジュール
9 / 15 (月)	新潟空港へご集合 新潟→ハバロフスク		お昼頃に新潟空港へご集合。ダリアピア航空機にてハバロフスクへ。 大河アムールを臨むホテルにチェックインして夕食をとります。
9 / 16 (火)	ハバロフスク →野生生物リハビリセンター		午前中、アムール川のほとりに建つ郷土博物館でタイガの自然や先住民族の文化を学びます。 午後、ハバロフスク地方南部の野生動物リハビリセンターへ移動。 このセンターでは、現在オスのアムールトラ一頭と最近保護されたメスの仔トラが飼育されています。また同センターは、ロシア極東のアムールトラ生息域の北限付近に位置しています。センターの宿泊施設へ滞在することで、アムールトラを取り巻く密猟の問題や保護の現状を知ることができます。
9 / 17 (水)	野生生物リハビリセンター →クラスヌィ・ヤール村		午前中、活動時間のアムールトラを観察 午後、ロシア沿海地方へと南下、生息ホットスポットであるピキン川流域にある先住民族ウデヘの村へ移動。
9 / 18 (木)	クラスヌィ・ヤール村 →ピキン川流域		朝食後、ウデヘ人の猟師とともにボートで数十 km ほど上流の森林地帯、トラの発見件数が多い場所であるウリマ山付近へ、 現役猟師の猟師小屋近くでキャンプを開始します。
9 / 19 (金)	ピキン川流域		アムールトラ生息頭調査にも参加したウデヘ猟師たちの猟場を散策。 アムールトラの生きる森を歩きます。
9 / 20 (土)	ピキン川流域 →クラスヌィ・ヤール村		午前中、ウリマ山のトレッキングコースを登ります、タイガの樹木と動物、ウデヘとトラの関係について学びます。 昼食後、クラスヌィ・ヤール村への川下りです。
9 / 21 (日)	クラスヌィ・ヤール村 →ハバロフスク		クラスヌィ・ヤール村を出発し、ハバロフスクへ。ハバロフスクのホテルにチェックインして夕方は街を自由行動です。
9 / 22 (月)	ハバロフスク →新潟		午前中、お土産物の豊富なハバロフスクの市場に立ち寄り、 午後、ハバロフスク空港で帰国便に搭乗します。

【参加費】 ¥275,000

【定員】 15名(最小催行人数:6名)

【お申込方法】 下記旅行社「ワイルド・ナビゲーション」からお申込書・旅行案内をお送りいたしますので、

申込書ご希望の旨、お電話・FAX・Eメール等でFoE Japan もしくはワイルド・ナビゲーションへお申し付け下さい。

【お申込期間】 2008年8月15日(金)迄(ただし定員になり次第締切です)

【旅行企画・実施、お申込み・お問合せ】

株式会社 ワイルド・ナビゲーション

<http://www.wild-navi.co.jp/>

国土交通大臣登録旅行業第 1753 号

総合旅行業務取扱管理者 宮田義明

(社)日本旅行業協会正会員

東京都渋谷区恵比寿西 2-7-10 第 6 ミトビル 9F 〒150-0021

TEL 03-5784-3980 FAX 03-5784-3981

E-MAIL travel@wild-navi.co.jp

【お問合せ先・現地協力】

国際環境 NGO FoE Japan

<http://www.foejapan.org>

東京都豊島区池袋 3-30-8 みらい館大明 1F 〒171-0014

tel: 03-6907-7217, fax: 03-6907-7219

E-mail sasaki@foejapan.org (担当 佐々木)